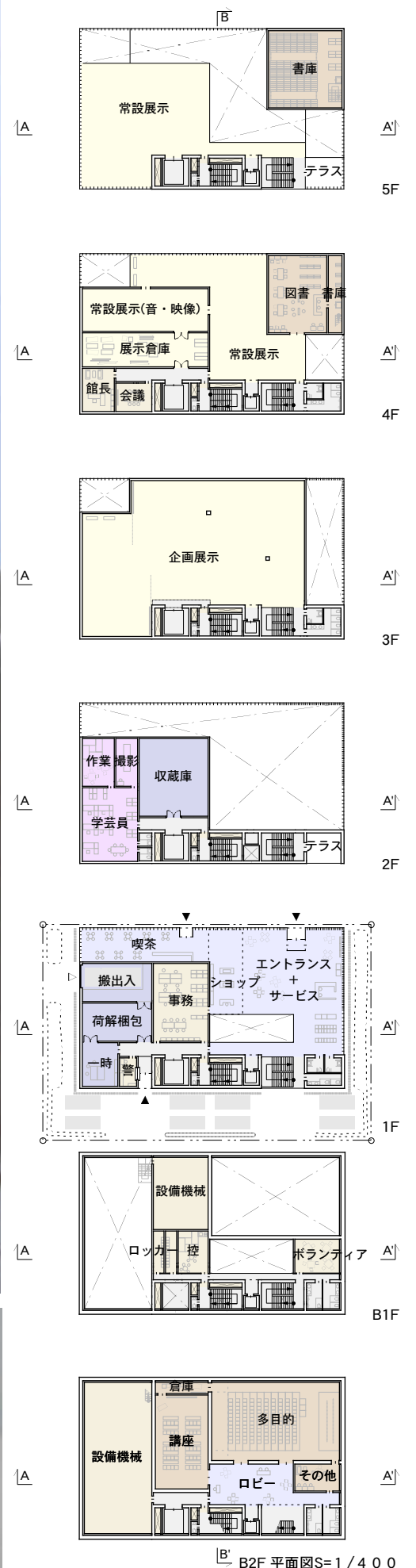
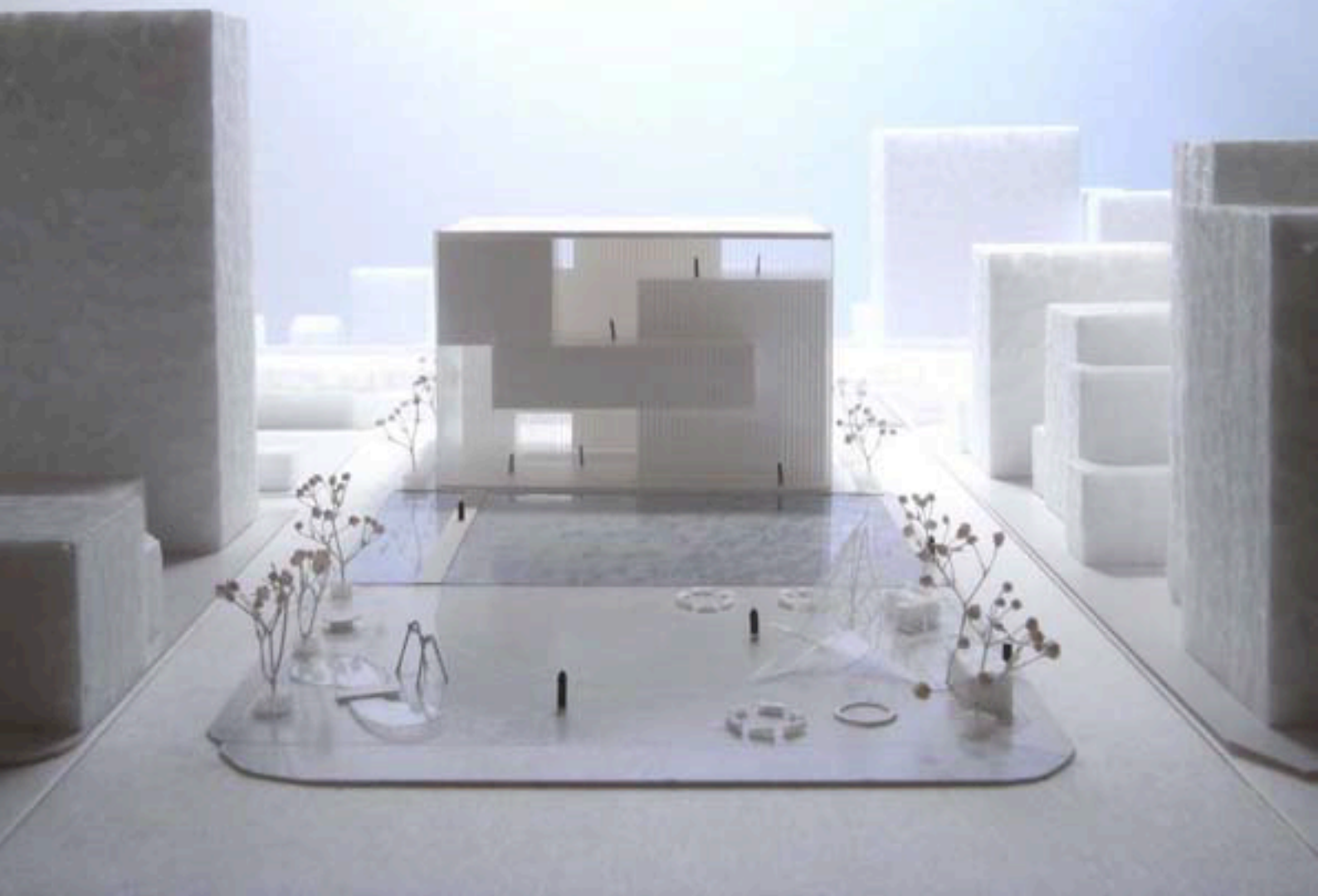
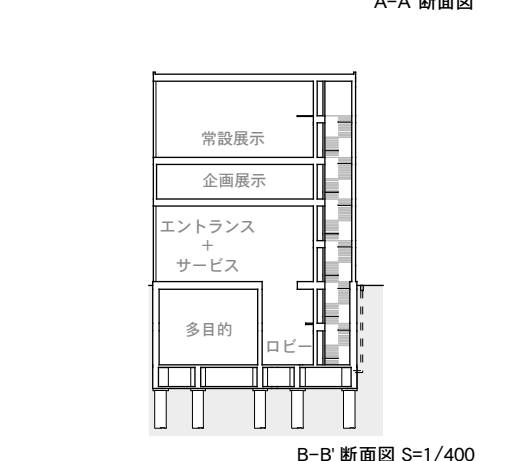
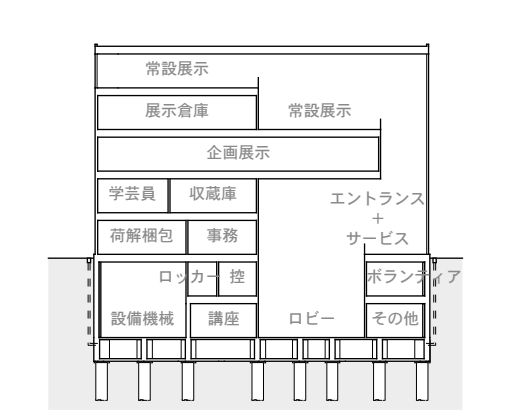
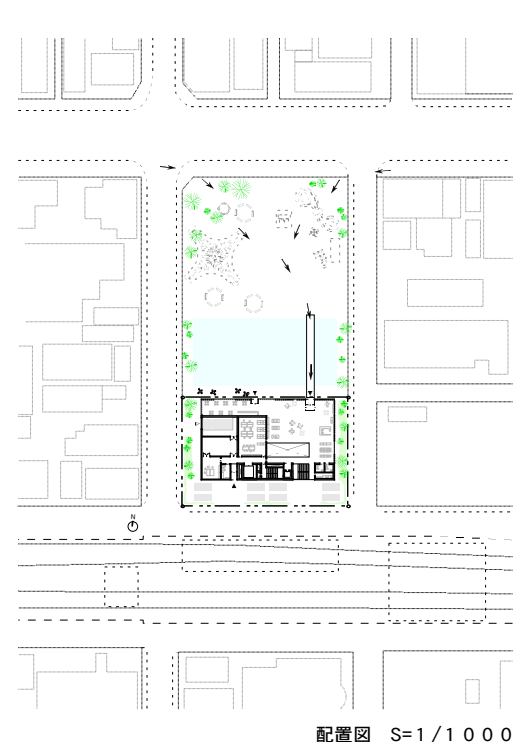


墨田区北斎館（仮称）基本設計プロポーザル案
 多様な価値を包含し継承する新しいランドマーク



室名表記については
 ※「室」と「ホール」は省略しています
 ※「ショップ」はミュージアムショップ
 「サービス」はサービス付常設設備
 「一時」は一時保管室
 「警」は警備室
 「その他」はその他諸室
 □はDS、PS、EPS
 ⊠は吹抜を表します

導入・サービス
 展示
 教育普及
 調査研究
 収集
 管理
 共用その他



■墨田区の宝箱・・・三つの宝箱と徘徊するボイド
 墨田区にとって北斎に関する作品、資料は過去から未来への非常に貴重な宝物であり、北斎館は現代の博物館といえます。それらを三つの箱に大切にしまい、誰が観てもわかりやすくその貴重さが伝わるように、飾り棚のように配置しました。（譲り受けた書物等のはいる図書室書庫、非常に繊細な実物が入る企画展示室、厳密に温度管理されたと収蔵庫と収蔵品を活かす学芸員や職員の活動の場）3つの箱の構成は明解で、それらのボリュームによってつくりだされるボイドはエントランスホールとライブ感あふれる常設展示空間をつなぎ、来館者はどこにいても無難なく自然に全体を把握することができます。わかりやすさと快適性は北斎館に足を運ぶお客様への最大のおもてなしとなります。

■北斎の作品の世界観を体感できる建築
 北斎の作品には観る主体から離れて我を振り返らせるような客観的な視点があり、画面を越えた関係性のなかで世界が成立していることを感じさせます。それは絶対的な中心のない多層にわたる関係性からできている多次元的な世界観です。この建物では、様々な関係性（観る／体験する、ヴォリューム／ボイド、作品／人、建物／街や池、常設展示／企画展示、来館者／職員、等々）を、わかりやすく明解に、かつ多重的に奥行きをもって経験することで、北斎の世界観を身体的にとらえることができ、北斎への理解が自然に深まります。

【1】周辺環境に潤いと豊かな表情をもたらす配置計画
 公園からアプローチできる、というこの敷地の特徴を最大限活かし、公園内の建物前に池を配し池越しのアプローチを取りました。北斎通りからくる人々はこの一角にきた瞬間に実際の建物と池に写った建物を目にします。そして、池を渡ってアプローチすることで、北斎の世界へと引き込まれていきます。洪水の危険性の高い地帯とはいうものの、この池は緑や水などが乏しく殺風景なこの周辺地域に潤いをもたらします。高架線路側はなるべく引きを取り、線路沿いの側道の暗い印象にぼっと開かれた明るさをつくります。引いた部分は駐車スペースとして利用し、公園から駐車している車が見えないようにします。建物は北斎通りからの正面性を強くもっていますが、同時に、電車からは沿線の建物の壁面線がそだけ引きをとってゆとりがあり特別な場所であることが感じられ、その奥に公園がちらっとみえる雰囲気は大切な宝物をほめめかすような表情豊かな存在があります。

【2】明解なゾーニングと構成
 両側のコア部分に垂直移動と水平移動の両方を集中させた、効率のよい動線計画となっています。さらに、東側に各階の客利用ゾーン、西側にサービスゾーン、と明解に分けています。大切な宝物のはいっている3つの箱は、ボリュームとしてどの場所からも明解に認識し易いので、来館者が自分の居場所を容易に把握でき、気軽に館内の回遊を楽しむことができます。企画展示室は、環境制御が行いやすいようにシンプルな密室とし、エアタイトのショーケースに合わせた天井高さで一定にそろえ、様々な利用に対して可動間仕切りのフレキシビリティを最大限活用可能にしました。夜間、時間差で利用する多目的ホールと講座室は地下にまとめているので、上階への階段とエレベーターの制御によって聴講者を円滑に誘導できます。

【3】構造計画
 構造は、地盤の状況から杭基礎が想定されるため、基本的に鉄骨造とすることによって、軽量化してコストダウンを図ります。外皮のガラス方立に構造の柱の機能もたせることで、ボイド空間に広がり感を確保し、内部空間の構成を明瞭にします。方立て柱はピッチを細かくして（@500mm）繊細な部材で構成し、日射と視線の制御をすとも、重量のある図書室書庫はピッチをより細かくして（@300m）対応します。耐震要素は南側に配置された階段やエレベーター周りの壁内に十分に設けることができます。

【4】設備計画
 地上階の床面積と天井高さを最大限活用するため、機械室はまとめて地下2階にとり、南側コアのDS、PS、EPSを通じて各階と連絡します。公園や高架の電車からの景観に配慮し、屋上には高さのある設備機器の設置をさけるため、キュービクル等は地下水進入の防水に留意した上で地下1階の機械室に設置します。空調は、ペリメーターゾーンと来館者のいるエリアを重点的に制御します。収蔵庫、一時保管庫、書庫は保存に最適な温室環境を管理します。トイレは職員と来館者とを分離して、わかりやすい位置（階段の脇）に用意し利用者の快適性を確保します。

【5】環境への配慮、省エネルギー・CO2の排出削減
 エントランスホールには細かいルーバーのようなガラス方立ごしに自然光を適度に採り入れ、照明時間を削減します。その他壁面はできる限りダブルスキンとし、断熱を十分に行い、空調効率を高めます。雨水の利用（植栽への散水、施設内の雑排水への利用など）をします。また天井高さの高い空間を利用して効率の良い換気計画を検討します。風力発電CO2の排出削減、バリアフリーなど、現地調査と区の方々との話し合いに基づき可能性の検討をしていきます。

【6】インシヤルとランニングコストの削減、軽減、サスティナビリティ
 コンパクトな動線計画によって面積を効率よく使います。メンテナンスがしやすい素材、経年変化が深みや美しさとなる素材をじっくり選出します。その他、区の方々との十分な議論を行い、使い勝手に即したエネルギー利用を検討してまいります。また、サスティナビリティを考慮し将来の変更をできる限り予測して対応可能な計画となるよう工夫します。